

【農業水利施設の魅力を知ってほしい(No.10);イタリアのカブール水路と水田地帯

(2024年2月)】

農地基盤情報研究領域 地域防災グループ上級研究員 廣瀬裕一

2023年4月から始まったこのコラムがNo.10に至った。キリの良い数字なので、海外の水田地帯を訪問した時の様子や感想をお伝えしたい。今回はイタリア北部のポー川流域の水田地帯を紹介する。

当方は、2010年9月と2014年5月に現地を物見した。今回は2010年9月に物見した、ポー川からカブール運河を取水する頭首工周辺と、フオンタネット・ポーの街の周辺の農地や水路の様子を紹介する。15年ほど昔の情報であることには、ご留意頂きたい。

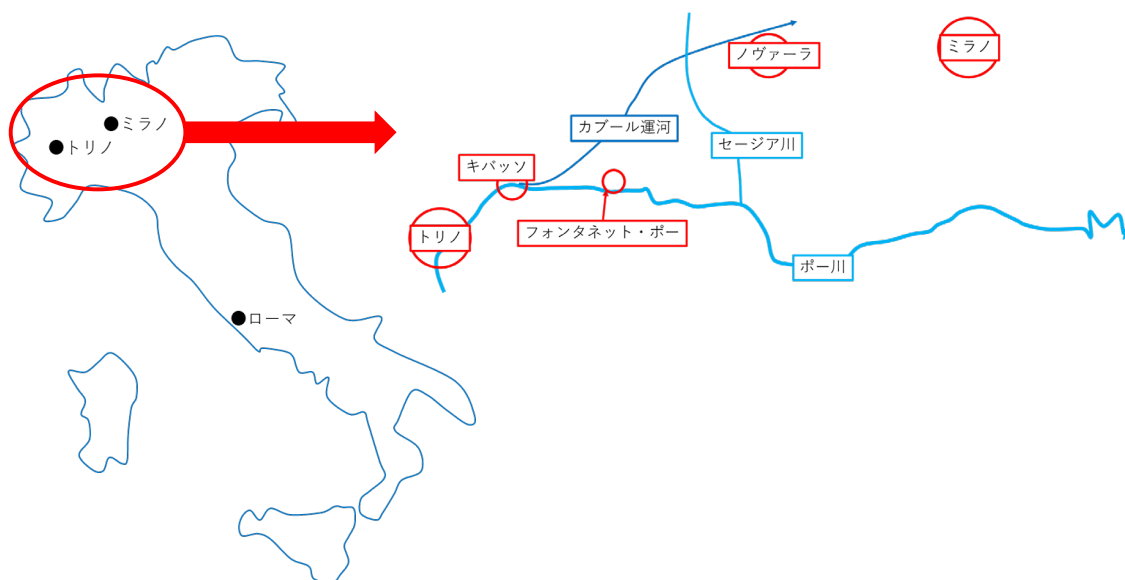


図1 紹介エリア

1. Canal Cavour（以下、カブール運河）

カブール運河は、イタリア王国首相カミッロ・カブール（19世紀のイタリアの政治家 Camillo Benso, Count of Cavour（本コラムでは以下、カミッロ・カブール）はサルデーニャ王国、イタリア王国の首相でイタリア統一の三傑とも呼ばれる。）がピエモンテ州・ロンバルディア州の稲作地帯への用水路の設計をカルロ・ノエ技師に指示し1866年に完成した。カブール運河はキバツソでポー川に頭首工を設置し用水を取水し Galliate でポー川支流のティチーノ川に流れ込む、全長83kmの用水路である。

2. Chivasso（キバツソ）の頭首工周辺

キバツソはトリノの北東約25kmに位置する基礎自治体（コムーネ）である。写真1-1は鉄道駅近くの街並みである。頭首工は鉄道駅近くに設置されている。写真1-2は頭首工直下のカブール水路である。遠方に水門を備える重厚な煉瓦づくりの建築物が見える。写真1-3、4が頭首工の写真である。良い写真が撮影できる場所がなく解りにくい写真であるが、写真はポー川左岸側から撮影しており、洪水吐（1-3）と堰堤（1-4）を撮影している。



写真1 キバツソの頭首工周辺の様子

3. Fontanetto Po の水田地帯

次にキバツソから東に 30km にある Fontanetto Po (以下、フオンタネット・ポー) の町を訪問したので、そのエリアの水田地帯を紹介する。街並みは余談で紹介する。

写真 2 は水田の写真である。水田 1 筆の面積はかなり広い印象であった。また矩形に整備されているわけでもなかった。加えて写真 2-1 にあるように圃場内に排水のための溝を掘っているようであった。また、排水路は土水路が目についた。

写真 3 は水路の写真である。年代物のゲート (写真 3-1、2) や、用水路と排水路が分離されていると思われる (写真 3-3、4) 様子が確認できた。



写真 2 フオンタネット・ポーの水田



1



2



3



4

写真3 フォンタネット・ポーの水路

【余談】

フォンタネット・ポーはのんびりした町で、駅（写真 4-1）も無人駅であった。町の中心に塔（写真 4-2）があり、その近くのトラットリアで食事をした。ピエモンテ州の名物をオーダーしたところ、リゾット（写真 4-3）とカエルのフリット（写真 4-4）が出てきた。まさに水田地帯に位置する土地の名物だと納得したものだった。



写真 4 フォンタネット・ポーの街並みとピエモンテ料理